

第1回可児市地域公共交通協議会議事要点録 概要

【日 時】 平成20年3月25日(火)午後1時30分～午後3時15分

【場 所】 可児市役所5階第1委員会室

【出席者】 協議会委員15人、代理委員2人、欠席委員2人、事務局3人

1 あいさつ

市を代表して副市長があいさつを行った。

【あいさつ要旨】

コミュニティバス(さつきバス)は、平成12年10月に運行を開始した。これまでにルート・ダイヤ改正を2回行ったが、利用者は減少の傾向にある。西可児地域の路線バスや名鉄広見線においても利用者が減少の傾向にあり、どれも厳しい状況であることから当協議会を設置した。今後は、可児市に相応しい公共交通について協議を重ねていくのでご協力をお願いしたい。

2 委嘱状交付

各委員に委嘱状を交付した。

3 会長の選出

委員の互選により山田委員が会長に就任した。

会長の指名により伊藤委員が会長職務代理に就任した。

4 協議

協議に入る前に、事務局から協議会の協議事項ならびに会議運営について説明し、いずれも了承された。その後、会長から本日の会議録の議事録署名者として柴田委員と石田委員の指名があった。

資料に基づき事務局から説明し、次回の協議会ではさつきバスの新しいコンセプトについて協議することとなった。

(主な意見)

【発言者】 委員 事務局

市内の公共交通機関の現状について

資料5に基づき事務局から説明した。意見なし。

平成18年度さつきバス利用状況調査について

資料6に基づき事務局から説明した。意見なし。

平成 19 年度公共交通機関の利用活性化に関する調査研究 (名城大学委託)について
資料 7 に基づき事務局から説明した。

サービス改善(増便)にかかる利用者の増とコストが示されていた。技術の進歩によるコスト削減策も考えられるが、資料中の数値の根拠について説明していただきたい。今回のアンケートでは 1,503 件の回答が得られたが、バスの増便による利用者増を研究するにあっては、1,503 件中の 428 件を有効回答として扱うことができた。428 件のうち「増便すれば利用する」と回答したのは 137 件(32%)であったが、この中から真に増加する人数を割り出すため、非集計分析という学術的な手法を用いたところ、真に増加するのは 4.3% (現状利用者の 2.7 倍まで伸びる) という結果が導かれた。

コストについては、実際に発生した経費(人件費や燃料代等)を走行距離で除した値を単価とし、増便を行った場合の走行距離に当該単価を乗じて算出した。

名鉄広見線について

資料 8 に基づき事務局から説明した。意見なし。

協議会のスケジュール 次回の議題について

資料 9, 10 に基づき事務局から説明した。意見なし。

その他

全国には山間部や住宅開発地域など、それぞれの地域によって様々な交通システムがある。路線バスをベースにしたところやデマンドバスなど、様々な情報を提供いただきたい。

後日、新コンセプトの原案や他事例を提供していただけるとのことであるが、どのように提供いただけるのか?

事務局としては、現在のバス体制をそのまま拡大するのは得策でないと考えている。できるだけ多くの事例を提供したいと考えている。

5 その他

本日の協議会では非公開部分はないことを確認し、次回の協議会を 5 月に開催することを伝え、協議会を閉会した。